

2023年度 沖縄大学
学校推薦型選抜

「こども文化学科小論文」
問題用紙

2022年11月26日(土)
9:00~10:00

【小論文】

【設問】

今年 10 月 31 日から 11 月 3 日まで「第7回世界のウチナーンチュ大会」が行われました。

今では沖縄出身4世(ひ孫)以上の世代の参加も珍しくありません。彼らはどうして今でも沖縄に対してアイデンティティーを感じているのでしょうか。彼らの気持ちを「想像」してあなたの考えを 600～800 字で書いてください。(知識を問う問題ではありません)

※以下は大会のホームページから抜粋した文章ですが、この文章を参考にしてもしなくてもかまいません。

沖縄県は、全国でも有数の移民を送り出した県でありその歴史は1世紀を超えます。先人達は海を越え、遠く離れた国で新天地を開拓し、懸命な努力によって困難を乗り越えてきました。各地で生活基盤を築き、異文化社会の中でしっかりと根を下ろしながら、沖縄独自の伝統文化やアイデンティティーを脈々と受け継いできました。前回大会の時点では、世界各国に約42万人の県系人がいると推計されています。

「世界のウチナーンチュ大会」は、沖縄県の貴重な人的財産である世界各地の県系人の功績を称えるとともに、県民との交流を通してウチナーネットワークを拡大・発展させ、さらに母県である沖縄に集い、そのルーツやアイデンティティーを確認し次世代へ継承していくことを目的としています。

同大会は沖縄県や関係機関で組織される世界のウチナーンチュ大会実行委員会が主催し、1990年(平成2年)の第1回大会から概ね5年に1度のペースで開催しており、これまでに6回開催されています。

「第7回世界のウチナーンチュ大会」 <https://wuf2022.com/ja/> より